

Azure Sphere を使用する

100 XP

4 分

Tailwind Traders では、セルフ レジ用のタッチレス POS ソリューションを実装したいと考えています。セルフチェックアウト端末は、何よりも安全である必要があります。不正なトランザクションを作成する、会社に大量の売上がある期間中にシステムをオフラインにする、またはスパイする組織にトランザクション データを送信する可能性のある悪意のあるコードに各ターミナルが侵害されないようにする必要があります。また、これらの端末では、会社の正常性に関する重要な情報を報告する必要があり、ソフトウェアをリモートで安全に更新できる必要もあります。

Tailwind Traders は、提案依頼のプロセスで考えられる多くのソリューションを検討した後、ベンダーがまだ実装していない機能が必要であると判断しました。同社では、既存のソリューションを使用する代わりに、IoT ソリューションを専門とする大手エンジニアリング会社と連携することにしました。このアプローチにより、同社は、セキュリティで保護された独自の端末を構築でき、今後はこれに基づいて小売プラットフォームを構築することができます。

Tailwind Traders が最も重点を置いているのは端末そのものですが、すべての小売店でこれらの端末によって生成されるすべてのデータを理解するのに役立つソリューションが必要であることを認識しています。さらに、ソフトウェアの更新プログラムを端末に簡単にプッシュする方法も必要です。

どのサービスを選択すべきか

この場合も、これまでと同様、決定の条件を適用します。

1 つ目は、デバイス (この場合は各 POS 端末) が侵害されないようにすることは重要かということです。もちろんです。デバイスのセキュリティが主要な要件です。

次は、レポートと管理のためにダッシュボードは必要かということです。はい。この会社は、レポートと管理のダッシュボードを必要としています。

そのため、決定基準に対する答えを受けて、IoT エンジニアリング会社では Azure IoT Central と Azure Sphere の両方の上にプラットフォームを構築します。このシナリオでは、Azure IoT Central で利用できる特定のスターター テンプレートはありませんが、同社が表示したい種類のレポートや実行したい管理操作に対応するように簡単に適合させることができます。

IoT Hub を選択する場合

実際のところ、Tailwind Traders は、IoT Central を使用することにより、バックグラウンドで Azure IoT Hub も使用することになります。